

アメリカの製薬大手ファイザーは
1日、同社の新型コロナウイルス
ワクチンについて、

保管条件を変更し、氷点下25度から
氷点下15度の冷凍での保管が
最長2週間可能になったと
発表しました。

通常の医薬品用冷凍庫で

取り扱いができるようになる

利点があり、厚生労働省は今後、
自治体などに変更を踏まえた
保管や輸送の方法を示す
予定としています。

厚生労働省が所管するPMDA
＝医薬品医療機器総合機構の
評価を受け、添付文書を
改訂しました。

ファイザー社のワクチンは、
氷点下90度から氷点下60度の
超低温状態で輸入され、
全国各地の医療機関などに
特殊な冷凍庫を配備して
保管することになっています。

ここから接種会場に輸送し
2度から8度の冷蔵庫に
入れた場合、5日間で

使い切る必要がありました。

今後は、氷点下25度から

氷点下15度用の医薬品用の

冷凍庫があれば、2週間

保管できることになります。

かかりつけ医などで接種を行う場合も

これまでより長く保管できるため、

ワクチンの接種計画が

立てやすくなる

可能性があります。

今回の改訂では、医薬品用の冷凍庫に

移した後も1回に限り、再び

氷点下90度から氷点下60度の

超低温に戻して保管することも

認めました。

ワクチンの取り扱い条件の

緩和については、アメリカの

FDA＝食品医薬品局が

先月（2月）下旬に

認めたのを機に、

ファイザー社が厚生労働省にも

データを提出していました。

止め